

令和5年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名		岡山県立井原高等学校		
実践者等		岡野 清美	実践日	令和5年11月27日
実践場面 (教科・科目(単元名)、学校行事等)		古典B 練習問題を解き、自作の解説書を基に、既習事項の文法を用いて、他者に説明する。		
対象生徒(学年等)		普通科3年		
育成を目指す資質・能力		☒ 知識・技能(技術) ☒ 思考力・判断力・表現力等 ☐ 学びに向かう力・人間性等		
分類	授 業 中	☒ クラウドやアプリの活用 ☐ デジタルデータの保存 ☒ 思考やデータの可視化		
		☒ データの共有や共同編集 ☐ 対話を充実させる活用 ☐ 思考を促す活用		
		☒ 表現を充実させる活用 ☐ 課題のやり取りと評価の支援 ☒ 効率化や省力化		
		☐ その他()		
	家庭学習	☒ 振り返り ☐ 探究 ☐ 反転学習 ☒ 補習・定着		
実践の内容				
【前時まで】 自作の解説書においては、1班4～5人で段落や問題ごとに担当者を決め、既習事項を用いて、現代語訳の要約と問題の解説を作成する。自作の解説書は、1班で一つのGoogleドキュメント(共同編集可能)にまとめる。 【本時】 (1) 本時の目標、内容についての確認をする。 事前に作成した自作の解説書を基に、他班の同じ問題の担当者同士で集まり、新たな知識を得る。自班に戻り説明することで知識の定着を図る。 (2) 練習問題(源俊賴が著した「俊賴髓脳」の一節)を各自で黙読をする。 (3) 他班に説明を行う。その際、「作成者の意図をしっかりと見極める」「自分の理解している内容を自分の言葉で伝える」「なぜその解答を選択したのか」等を意識して、古語の意味や文法といった既習事項を活用し、聞き手に説明する。 (4) 教師が生徒へ既成の解説・解答を配る。生徒は、自作の解説書との比較をする。「伝えていなかった部分やポイントがあれば伝える」など、グループ内で補足説明を行い、情報共有を図る。 (5) Googleフォームを用いて、本時の目標に対する自己評価と振り返りをする。				
				
<各自で端末を見て他班に説明している様子>				
【本時と家庭学習との連動】 (本時前) Googleドキュメント(共同編集)を用いて、解説書の作成・確認を行う。 (本時後) Googleドキュメントを用いて、解説書と自分の解説との比較を再度行い、既習事項の復習を行う。				